

2022 年度事業報告と決算公告書



一般社団法人日本ゲシュタルト療法学会

資料目次

1.	2022 年度事業報告並びに計算書類	3
1.1.	2022 年度事業報告	3
1.1.1.	大会の開催	3
1.1.2.	国際的なゲシュタルト・セラピストの招聘ワークショップの開催	3
1.1.3.	国内のゲシュタルト療法団体、個人とのネットワーキング	3
1.1.4.	研究活動と機関誌の発行	4
1.1.5.	セラピストの育成システム	4
1.1.6.	事務局	5
1.2.	2022 年度決算報告	7
1.3.	監査報告	10
1.4.	社員名簿	11
2.	2023 年度事業計画及び収支予算	12
2.1.	事業計画	12
2.1.1.	大会の開催	12
2.1.2.	国際的なゲシュタルト・セラピストの招聘ワークショップの開催	12
2.1.3.	国内のゲシュタルト療法団体、個人とのネットワーキング	13
2.1.4.	研究活動と機関誌の発行	13
2.1.5.	セラピストの育成システム	13
2.1.6.	その他	14
2.2.	収支予算	15
3.	付録	16
3.1.	学会と登録団体の役割と責任の明確化及びファシリテーター育成方針改定	16

1. 2022 年度事業報告並びに計算書類

1.1. 2022 年度事業報告

事業年度 2022 年 9 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

会員数：271 名（2023 年 3 月 31 日時点）

当学会の 5 つの活動分野および事務局の業務を以下に報告いたします。

1.1.1. 大会の開催

- 1 月ワークショップ大会実行
 - 日時：（2023 年 1 月 7 日（土）～9 日（月祝））
 - 開催形式：オンライン
 - 大会長：三井洋子（副理事長）
 - 招聘講師
 - ◇ キーノート：ジョン・レアリー・ジョイス
 - ◇ リヴ・エストラップ
 - ◇ ピーター・コール（ビデオ）
 - ◇ アーノルド・バイサー「翼なき飛翔」上映
 - 参加者：104 名（新規入会 31 名、非会員 3 名）

1.1.2. 国際的なゲシュタルト・セラピストの招聘ワークショップの開催

- ナンシー・アメント・リヨン スーパービジョントレーニング（2023 年 3 月（5 月まで 3 回シリーズ））
- フリッツ・パールズ動画字幕公開（2023 年 3 月）

1.1.3. 国内のゲシュタルト療法団体、個人とのネットワーキング

- 部会活動についての連絡調整に関する業務として、分野ごとに実践報告や課題等について情報交換・調査・対話の場を持ち、各部会活動について必要な場合は調整を行う部会活動についての方向性を確認した
 - 会員の部会所属は固定するのではなく、開催するイベント等に興味関心がある会員は参加できるような形にした
 - 基本的にはオンラインでの交流だが、学術大会やワークショップ大会の際には対面での活動ができるよう工夫した

- 1月のワークショップ大会において1月9日 4つの部会を開催
- 子育て教育部会は「子育て・きょういく部会」に表記変更
- 産業・組織部会は「組織開発・人事部会」と「産業・メンタルヘルス部会」に分けた
- 7月までについての活動は各部会に一任(子育て・きょういく部会は6月開催に向けて準備)

1.1.4. 研究活動と機関誌の発行

- 学会誌「ゲシュタルト療法研究」の編集・発行について、10月より前編集委員会からの引き継ぎがあり、編集方針や投稿規定について議論と活動を開始した
- 学会誌の編集・発行について、今後の方針や投稿規定の改訂など、以下の通り報告した(2022年12月5日理事会承認)
 - 久松睦典編集委員長の決定
 - 投稿規定を検討し、公開できない論文は掲載しない方針とする
 - 今後、査読者の自薦他薦を受け付ける
 - 論文投稿は2022年12月9日までの受付
 - 会員はオンライン閲覧が可能にして、紙が必要な人に対してはオンデマンド印刷を提供する
 - 非会員に対してオープンにするかどうかは今後検討する
 - 「ゲシュタルト療法研究」投稿規定の改訂案の提案と、「投稿要領」への変更が理事会にて承認(2023年4月)
- 学会誌の編集・発行に関する編集業務
 - 投稿論文の受付：締め切りの2022年12月9日までに一本の投稿があり、査読者の選定と査読依頼を行った
 - 学会誌のオンデマンド出版に向けて、制作外注見積依頼(2022年12月)
 - 査読者、執筆者と査読のやり取りを継続し、2023年3月現在、最終査読中
 - 「ゲシュタルト療法研究会(仮)」の開催について報告、「研究の始め方、論文の書き方」と題した研究会をオンラインで定期的で開催する(2023年1月理事会)
- 研究会の実施。「論文の書き方」、「ゲシュタルト・グループセラピー読書会」。2月8日、3月8日、4月11日にオンライン開催

1.1.5. セラピストの育成システム

- 「ゲシュタルト療法ファシリテーターの育成」について11月より、Zoom や Slack により月1回程度のミーティングを実施。学会認定トレーニングコースの今後の運営方法、ファシリテーターの育成、登録団体の今後の在り方、ファシリテーター認定

制度について改定に着手

- ファシリテーター育成に関し、トレーニングコースの改定や今後の登録団体の在り方などについて、以下の通り登録団体とのミーティングや理事会での報告を実施。
 - 「ゲシュタルト療法ファシリテーターの育成及び質向上に向けた「学会認定ファシリテーター制度」の新設、並びに「トレーニングコース」等改定案」概要（2022年12月8日理事会）
 - 「ゲシュタルト療法ファシリテーター育成および質の向上へ向けた改定案」詳細（2023年1月16日理事会）
 - 「ゲシュタルト療法ファシリテーター育成や今後の登録団体の在り方等」について、登録団体代表者とのミーティングを実施。（2023年3月1、2日登録団体とのミーティング、2023年3月6日理事会にて報告）
- 海外講師によるSVや知識の向上、理論の勉強会とファシリテーターの育成、海外ファシリテーターとの交流を議題にして検討してきた
- 「理論の勉強会と一人でワークショップが開催できるファシリテーターの育成」に焦点を当てて検討中
 - 「研修委員会で考える学会の現状と問題、今後の活動の方向」について中間報告（2022年11月7日、2023年12月5日、1月16日理事会）
 - ファシリテーターの選定について意見交換（2023年2月6日理事会）
 - 「理論勉強会について報告」参加費用について意見交換（2023年3月6日理事会）
 - 「理論勉強会について報告」参加費用について報告、承認。勉強会のファシリテーター募集中

1.1.6. 事務局

- 法人経理プロセスの確立：法人銀行口座、クレジットカード開設、決済システムの導入（クレジットカード、コンビニ、Paypal）、顧問税理士の選定と税務処理プロセス（2022年9月～11月）
- 学会事務の省力化：
 - 過去の学会資料の一元管理（クラウドストレージ化）開始（2022年10月）
 - トレーニングコース修了証発行の自動化プロセス構築（2022年11月）
 - トレーニングコーステキストのオンデマンド印刷化（2022年11月）
 - 論文誌のオンデマンド印刷化（12号のみ）（2022年11月）
 - 会員管理（入会処理、退会処理等、個別会員との相互連絡）方法の刷新（2022年10月）
 - イベント開催とチケットシステムの構築（2023年2月）

- サイト会員と専門部会グループシステムの構築（2023年2月）
- 電子署名システム導入（2023年3月）
- トレーニングコーステキストの文字起こしと校正（2022年10月）
- ウェブサイトリニューアル（2022年10月～）
 - 会員ワークショップ情報のウェブサイト掲載プロセス構築（2023年1月）
 - 過去の資料のライブラリー化(論文誌、大会プログラム、ニュースレター、動画、録音)（2022年10月）
 - ウェブサイトと広報プロセス(Facebook、Instagram、Twitter)の連動（2023年1月）
 - 『夢のDVD』のオンデマンド動画配信（2023年2月）
 - サイト会員と専門部会グループシステムの構築（2023年3月）
- 任意団体解散処理
 - 過去5年分の自主税務調査－営利事業の洗い出しと確定申告(総勘定元帳、通帳調査)（2023年1月～3月）
 - 銀行口座等解約に伴う処理（2023年3月）
- 倫理関連特殊案件対応（2022年10月）
- 会計事務(入金管理、支払管理、経費精算、源泉所得税納付、仕訳)（2022年10月、以降毎月）
- 会員管理(入退会処理、個別会員とのやり取り)（2022年10月、以降毎月）

1.2. 2022 年度決算報告

決算報告書

2022 年度

自 2022年 09月01日
至 2023年 03月31日

一社) 日本ゲシュタルト療法学会
東京都千代田区麹町2-10-3 エキスパートオフィス麹町

貸借対照表

2023年03月31日 現在

一社) 日本ゲシュタルト療法学会

(単位: 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	7,856,985	【流動負債】	196,282
現金及び預金	7,652,615	未払金	151,398
売掛金	9,740	未払法人税等	40,800
前払費用	35,000	預り金	4,084
未収収益	159,630	負債の部合計	196,282
		純資産の部	
		【株主資本】	7,660,703
		利益剰余金	7,660,703
		その他利益剰余金	7,660,703
		繰越利益剰余金	7,660,703
		純資産の部合計	7,660,703
資産の部合計	7,856,985	負債及び純資産の部合計	7,856,985

損益計算書

2022年09月01日 ~ 2023年03月31日

一社) 日本ゲシュタルト療法学会

(単位: 円)

科 目	金 額	
【売上高】		
売上高	36,781	
大会参加費収入	1,612,528	
寄附会費収入	1,274,833	
受取寄附金	6,864,482	
売上高計		9,788,624
売上総利益		9,788,624
【販売管理費】		
販売管理費計		2,087,126
営業利益		7,701,498
【営業外収益】		
受取利息	5	
営業外収益計		5
経常利益		7,701,503
税引前当期純利益		7,701,503
【法人税等】		
法人税・住民税及び事業税	40,800	
法人税等計		40,800
当期純利益		7,660,703

販売費及び一般管理費内訳書

2022年09月01日 ～ 2023年03月31日

一社) 日本ゲシュタルト療法学会

(単位： 円)

科 目	金 額	
外 注 費	375,449	
広 告 宣 伝 費	19,999	
通 信 費	30,088	
消 耗 品 費	27,500	
新 聞 図 書 費	7,976	
支 払 手 数 料	1,331,314	
地 代 家 賃	102,300	
支 払 報 酬 料	192,500	
販 売 管 理 費 計		2,087,126

2022年度収支計算書

2022年9月1日から2023年3月31日

勘定科目	金額	共通	収益	非収益	収益事業の収支
売上高					
寄附会費収入	1,274,833	0	0	1,274,833	0
受取寄付金	6,864,482	0	0	6,864,482	0
大会参加費収入	1,612,528	0	0	1,612,528	0
売上高	36,781	0	36,781	0	36,781
売上高計	9,788,624	0	36,781	9,751,843	36,781
販売管理費					
外注費	375,449	77,000	188,449	110,000	188,738
広告宣伝費	19,999	0	0	19,999	0
通信費	30,088	5,649	0	24,439	21
消耗品費	27,500	27,500	0	0	103
新聞図書費	7,976	0	0	7,976	0
支払手数料	1,331,314	730,995	350	599,969	3,096
地代家賃	102,300	102,300	0	0	384
支払報酬料	192,500	192,500	0	0	723
販売管理費計	2,087,126	1,135,944	188,799	762,383	193,065
営業損益金額	7,701,498	-1,135,944	-152,018	8,989,460	-156,284
営業外収益	5	5	0	0	0
受取利息	5	5	0	0	0
営業外費用	0	0	0	0	0
経常損益金額	7,701,503	-1,135,939	-152,018	8,989,460	-156,284
特別利益	0	0	0	0	0
特別損失	0	0	0	0	0
税引前当期純損益金額	7,701,503	-1,135,939	-152,018	8,989,460	-156,284

1.3. 監査報告

2023年5月25日

監査報告書

一般社団法人日本ゲシュタルト療法学会
監事 上田美智子

2022年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、支出計画実施報告書その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

監事上田は調査を行い、監査を実施しました。具体的には、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について定期的に報告を受け、また、随時説明を求めました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当です。
- (4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。
- (5) 支出計画実施報告書は法令及び定款に従い、当法人の支出計画の実施状況を正しく表示しています。

3. 追記情報

以上の議事録の正確を期するため、監事上田は本書の電磁的記録を作成し、電子署名を施し、その電磁的記録を保管する。

以上

1.4. 社員名簿

上石統子（理事）
芦原義浩
伊藤直信
上田美智子（監事）
上谷和美（理事）
上谷実礼
内海眞由美
馬屋原眞美子
大槻貴志
岡田雅子（理事）
小倉広
相良優子
零石政利
白坂和美
陣内裕輔（代表理事）
鈴木明美（理事）
高山豪史（理事）
田中文子
田中千恵子
檀野竹美
永井美雪
中西徹
中野英子（理事）
西野珠美
野妻裕美
濱敬志（理事）
久松睦典（理事）
藤木結（理事）
藤原勝（理事）
前島佳代子
三上道代
三井洋子（副代表理事）
南川哲寛
室城隆之
毛受誉子
百武正嗣（理事）
山本誠司（理事）
山本直
渡部洋子

以上 39 名（氏名五十音順、2023 年 5 月 8 日臨時社員総会承認）

2. 2023 年度事業計画及び収支予算

2.1. 事業計画

以下を 2023 年 4 月～2024 年 3 月の事業計画基本方針とする。

- 会員への利得還元を最大化させ、内部留保はなるべく少なく保ち、かつ、安定した法人経営を担保することを目標とする。
 - 毎年の繰越金は年間固定費（事務局費用）の概ね 1.5 倍を目安とする。
 - 一般社団法人の場合は解散時の保有資産は会員に分配することができない。
 - 大会、WS、研修、論文、その他（講演会、勉強会、資料の翻訳・出版、など）の各活動計画は単一イベントで収支計上し、全体でバランスを取る。
 - 仮に万一、法人解散をすることになり収入がゼロとなった場合でも、1 年分の活動費があれば解散処理は十分可能。
- 事務局運営を業務委託する。
 - 法人化により厳密な決算を前提とする経理処理や、学会内外とのコミュニケーションや管理作業など、任意団体当時よりも複雑で業務量も多いため。
 - ツールの導入、ペーパーレスを進めてかなり合理化できたものの、現在の事務局体制では法人の継続的運営にリスクがあるため。

2.1.1. 大会の開催

- 学術大会 テーマ：「グループ・プロセス - 今、大事にしたいこと」
 - 大会長：野妻裕美、大会事務局長：久松睦典
 - 日程：2023 年 7 月 15 日（土）～17 日（月祝）
 - 会場：国立代々木オリンピックセンター

2.1.2. 国際的なゲシュタルト・セラピストの招聘ワークショップの開催

- ナンシー・アメント・リヨン「スーパービジョントレーニング（4/22, 5/13、オンライン）
- ジョン・レアリー・ジョイス「ゲシュタルト・コーチング」（6/24-27、リアル）
- ピーター・コール「ゲシュタルト・グループセラピー アドバンス」（7/18-19、リアル）

2.1.3. 国内のゲシュタルト療法団体、個人とのネットワーキング

- 部会活動の推進
 - 年2回程度の部会ごとの情報交換、オンラインミーティング
 - 理事が部会開催を担当
- 研修、勉強会、ワークショップの充実
- 会員コミュニケーションの活性化
- 以下を目的として、5月よりオンライン理論勉強会を毎月開催（無料）
 - ゲシュタルト療法理論の実際のワークへの応用
 - ファシリテーターがワークショップを開催する力量強化

2.1.4. 研究活動と機関誌の発行

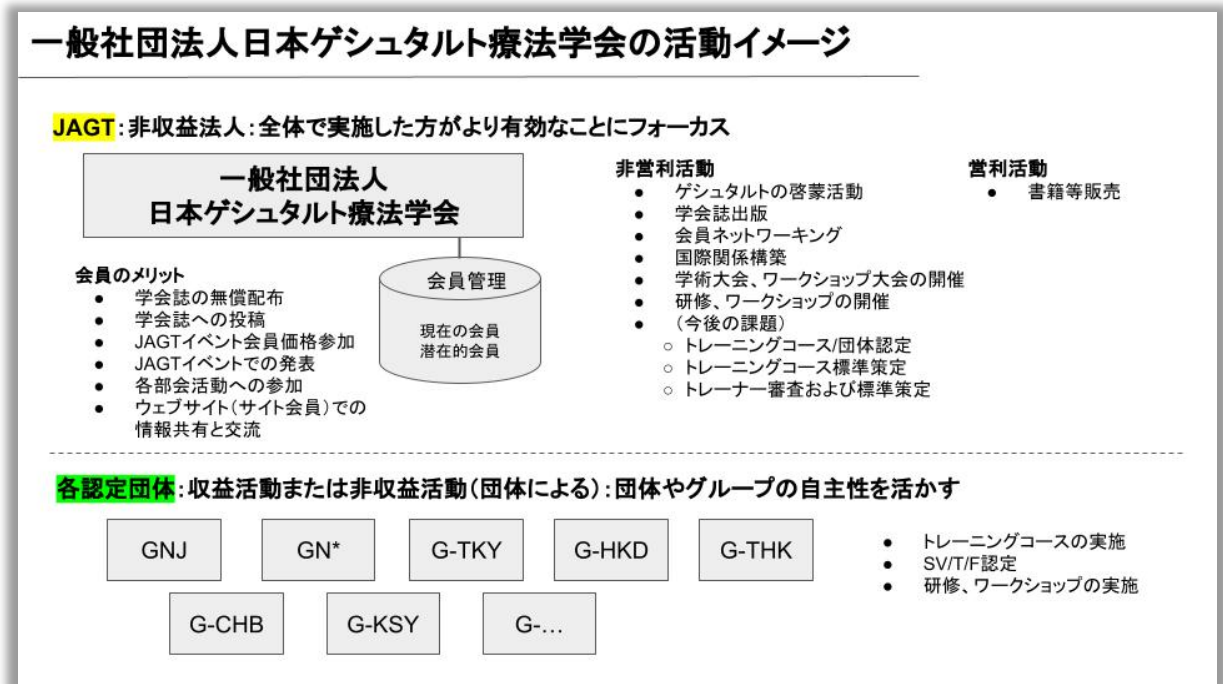
- 「ゲシュタルト療法研究」第13号発行
 - 会員にはオンラインで無料配布
 - ハードコピーが必要な会員のためにオンデマンド印刷配送の準備
- 第14号の準備 論文受付、査読
- 研究会、講演会の開催

2.1.5. セラピストの育成システム

- ファシリテーター育成に関する新たなビジョンと方向性の策定

2.1.6. その他

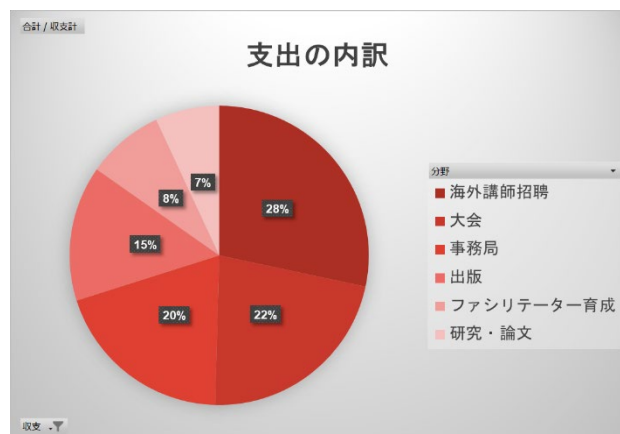
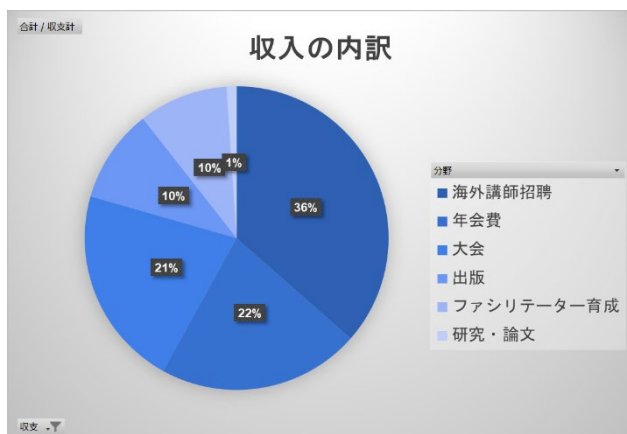
- 法人化後の運営安定化



- 『ゲシュタルト療法完全ガイドブック』(原著: Gestalt Therapy-History, Theory, and Practice, Ansel L. Woldt 他) の出版

2.2. 収支予算

科目		金額 (円)
収入の部	前期繰越金	7,660,703
	年会費	1,812,000
	大会	1,800,000
	研究・論文	90,000
	ファシリテーター育成	800,000
	海外講師招聘	3,070,000
	出版	840,000
	合計	16,072,703
支出の部	大会	2,703,680
	研究・論文	848,000
	ファシリテーター育成	1,020,000
	海外講師招聘	3,470,971
	出版	1,792,000
	事務局	2,409,734
	次期繰越金	3,828,318
	合計	16,072,703



3. 付録

3.1. 学会と登録団体の役割と責任の明確化及びファシリテーター育

成方針改定

(次頁に添付)

学会と登録団体の役割と責任の明確化及び、 ゲシュタルト療法ファシリテーター育成へ向けた改定案

1. 目的

「学会と登録団体の役割」並びに、「お互いの責任範囲を明確化すること」で、「学会でやるべきこと」と「登録団体にやるべきこと」を区分し、学会員が自主的にゲシュタルト療法の学びを深め、自己研鑽を実践しやすいコミュニティを創出する。これにより、学会は「学会員へ学びやすい環境」を提供し、学会員のレベル向上をサポートするとともに、日本におけるゲシュタルト療法の更なる普及と発展を目指す。

2. 改定案

- (1)学会と登録団体の役割と責任の明確化
- (2)登録団体の今後の在り方
- (3)トレーニングコースの今後の在り方
- (4)学会認定資格制度およびトレーナー審査会

(1)学会と登録団体の役割と責任の明確化

学会と登録団体の役割と責任を以下の通り区分する。

【学会の役割と責任】

- (1)ゲシュタルト療法を学び、深めるための学会員のコミュニティを創出する。
- (2)ゲシュタルト療法の学びを深め、日本におけるゲシュタルト療法レベルを向上させる。

- ①学会員が自らゲシュタルト療法を学び、深め、実践できるコミュニティとしての役割。これにより、学会員が自主的にゲシュタルト療法を学べる場を提供する。
(各種研修開催、学会員によるワークショップ開催、分野毎のゲシュタルトコミュニティの創出と活動)
- ②海外におけるゲシュタルト療法との繋がり場としての役割。これにより、世界標準のゲシュタルト療法を習得し、自らの学びへ活かす。
(海外講師によるワークショップ開催、書籍や論文紹介・翻訳、海外における情報の紹介等)

【登録団体の役割と責任】

(1)地域に根差した活動によるゲシュタルト療法の普及と地域貢献

- ①各地域に根差した活動によるゲシュタルト療法の普及とゲシュタルト療法の活用による地域の人々への貢献。これにより、全国へゲシュタルト療法をこれまで以上に普及する。

(2)登録団体の今後の在り方

①名称の変更

登録団体の名称を「**学会認定団体**」へ変更する。

これにより、認定された各団体並びに、各団体を認定した学会の役割や責任を明確にするとともに、「学会認定団体」としての自覚と責任を持ち、地域における更なるゲシュタルト療法の普及を実践する。

②今後の学会認定団体の役割

現行の登録団体は学会設立当初、トレーニングコース開催を主な目的として設立されたものである。

これまでは本学会活動の中心がトレーニングコースであり、その機能を十分発揮してきた。そして、地域にお

けるトレーニングコース受講者の減少等を考えた場合、トレーニングコースに頼らないゲシュタルト療法の普及を実践する必要があり、今後の学会認定団体の役割を以下のとおりとしたい。

- イ) 地域性や独自性を持ちながら、各地域へ根づいたゲシュタルト療法の普及を実践する。
- ロ) 各地域において、学会員以外へゲシュタルト療法の勉強会やワークショップなどを提供し、地域の人々へ貢献する。
- ハ) 各地域の学会員向けにゲシュタルト療法の学びの場を提供し、勉強会やワークショップを開催するなど、学会員の自己研鑽をサポートする。

③学会認定団体の認定条件

上記学会認定団体の役割等を実践するため、以下の通り改定したい。

【改定案】	【現 行】
<p>①学会の趣旨へ賛同し、各地域においてゲシュタルト療法の普及活動を継続的に実践している。</p> <p>②各地域において、学会員以外の人々へ、ゲシュタルト療法の勉強会やワークショップなどを継続的に提供し、地域へ貢献する。</p> <p>③学会員向けにゲシュタルト療法の学びの場を提供し、勉強会やワークショップを継続的に開催するなど、学会員の継続的なサポートをする。</p> <p>④団体の所在、責任者が明確であり、ホームページを設置している。</p> <p>⑤学会の倫理規程に基づき、誠実に活動している。</p> <p>⑥学会認定団体の認定については理事会で審査を行い、認定する。</p> <p>I)新規認定については、「上記①～⑤に基づいた活動を3年以上継続的に実践しており、今後も学会認定団体として継続的に活動できること」を認定条件として審査を行う。</p> <p>II)更新認定については、3年毎に上記①～⑤に基づき更新審査を行う。</p> <p>⑦当学会の認定団体としてふさわしくないと理事会で判断した場合、学会認定を取り消す。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none">・学会倫理規程に照らし、ふさわしくない行為が頻繁に発生した場合。・学会認定団体へ苦情やクレームが頻繁に発生した場合。・学会認定団体としての活動が停滞し、明らかに地域におけるゲシュタルト療法の普及ができていない場合。	<p>①学会認定トレーニングコースを開催する能力があること。</p> <p>②ゲシュタルト療法を含め、その他の心理療法を3年以上提供していること。</p> <p>③トレーニングコース修了者の自主トレーニングサポートができること。</p> <p>④団体の所在、責任者が明確であること。</p> <p>⑤ホームページ及びパンフレットを設置していること。</p> <p>⑥最初の登録から3年後に更新の審査を行う。</p>

(3) トレーニングコースの今後の在り方

【今後の在り方】

学会認定団体の自主性や独自性を尊重することで、トレーニングコースを学会認定から**学会認定団体認定へ変更**する。

以下の条件のもと、学会認定団体へ一任する。

- ① **受講人員**：最低受講人員 6 名の条件を廃止する。
- ② **受講時間**：ベーシックコース、アドバンスコースともに、**それぞれ 150 時間以上のコース設定とし、8 割以上（120 時間以上）の受講を持って修了**とする。
- ③ **講師**：講師の人数制限（現行 SV またはトレーナー 4 名以上）を廃止し、**講師の選定については以下の条件とする。**
 - I) 学会 SV、トレーナーまたはトレーナーに準ずる力量があると学会認定団体が判断した者
 - II) 海外で活躍しているゲシュタルト療法家
 - III) 現象学、実存主義など、ゲシュタルト療法の基礎となる哲学などに精通し、ゲシュタルト療法との関係性を十分理解している者
 - IV) ゲシュタルト療法の基本を学ぶために必要なゲシュタルト療法以外の理論や実践に精通し、ゲシュタルト療法との関係性を十分理解している者
- ④ **コース内容**

【ベーシックコース】ゲシュタルト療法の基本を学ぶコースとし、多くのクライアント体験をすることで、ゲシュタルト療法について、体験を通して学ぶ。

【アドバンスコース】ゲシュタルト療法ファシリテーターとしての基本を学ぶコースとし、多くのファシリテーター体験を通して、ゲシュタルト療法の理論やファシリテーターとしての在り様を学ぶ。
- ⑤ **受講者名簿の提出**
 - I) 学会認定団体は学会宛にトレーニングコース開催後速やかに受講者名簿を提出する。
 - II) 学会はトレーニングコース受講者へトレーニングコース内容についてのアンケートを依頼することがある。
- ⑥ **修了証**：**学会認定団体の責任のもと修了証を発行する。**

※一般社団法人日本ゲシュタルト療法学会認定の修了証は発行しない。
- ⑦ **その他**：学会認定団体認定トレーニングコースは、純粋なゲシュタルト療法を学ぶ場としてのトレーニングコースとし、各学会認定団体の創意工夫によりゲシュタルト療法の質を高めるコース設計としなければならない。

(4) 学会認定資格制度及びトレーナー審査会について

- ① **上記(1)学会と学会認定団体の役割と責任の明確化**のとおり、学会は「ゲシュタルト療法を学び、深め、実践できるコミュニティの場」、「海外におけるゲシュタルト療法との繋がり場」という役割と責任のもと今後運営する。従って、その主旨に基づき、**学会認定資格等の付与は行わない。**
- ② **トレーナー審査会については中断する。**

ただし、登録団体とのミーティングにおいて、現在の審査会のような「大勢の前でファシリテーターを体験する場はあった方がよい」との意見も出ており、**審査会に代わる、「ファシリテーターを体験する場」を別に設定する。**

3. 実施時期

2023年 7月 1日

以上

(参考)学会と学会認定団体の役割と責任

【学会】**会員が自主的にゲシュタルト療法を学び・深めるコミュニティの創出**

会員同士の情報共有の場

- ・各地におけるワークショップ開催情報の共有
- ・各地での活動状況の共有など

会員の学びの場

会員向けワークショップ・講座の提供

会員同士の自己研鑽の場

会員同士による自主的なワークショップや勉強会の開催など

会員が自主的に学び・深めるコミュニティ

分野ごとのコミュニティの場

専門部会によるゲシュタルト療法の活用
臨床、組織開発・人事、産業・メンタルヘルス、社会一般、子育て・教育

会員の集いの場

ワークショップ大会
学術大会の開催

海外におけるゲシュタルト療法の学びの場

- ・海外講師によるワークショップ
- ・書籍や論文の紹介・翻訳
- ・海外におけるゲシュタルト療法の紹介など

【学会認定団体】地域に根差した活動によるゲシュタルト療法の普及と地域貢献

各地域に根差した活動によるゲシュタルト療法の普及とゲシュタルト療法の活用による地域への貢献。これにより、全国へゲシュタルト療法をこれまで以上に普及する。

地域会員同士の情報共有の場

地域会員同士の自己研鑽の場

会員同士によるワークショップ
や勉強会の開催など

地域に根差した
活動による普及
と地域貢献

地域の人々(学会員以外)との
活動の場

各地域でのゲシュタルト療法勉強会やワークショップの提供による地域貢献など

学会員自己研鑽サポートの場

地域会員向けトレーニングコース、ワークショップ・講座の提供など